

氏名	Aさん	Bさん	Cさん
学科(学部生)	日本文化学科	国際コミュニケーション学科	日本文化学科
Q1 卒業論文のテーマ	「女人罪障の物語 なぜ幽霊は女なのか」	「ブルーノ・タウト 日本文化へのまなざし」	「日本のミュージアムショップにおける一考察」
Q2 テーマを選んだ理由	物語や絵画、メディアなどに登場する日本の幽霊が主に女性であることに注目し、どのような意義が込められているのかという疑問を出発点に、このテーマを選んだ。	とある展覧会でみた現代美術の作品から、建築家ブルーノ・タウトの存在を知った。日本では桂離宮を絶賛した人物として有名だが、タウトが来日中に綴った日記や遺されている写真はとも興味深い。彼は昭和初期の日本で何をしていたのか、タウトの足跡をたどり、現在はどうなっているかを論じたいと考えた。	当時、ミュージアムショップでアルバイトをしていたため、それをきっかけに、ミュージアムショップの実情を知りたいと思い、さらに経営難と言われる博物館界に何か寄与できるのではないだろうかと考えたのが、今回のテーマ設定に繋がった。
Q3 作成スケジュール	{3年生} テーマ探し {4年生} 5月 指導教員と面談の上、テーマ決定 6月 教育実習(卒論作成は中断) 7月～9月 資料を収集し、読み解いた上、資料の整理をした(一番時間をかけた) 10月～12月 執筆 12月 提出(12月14日付)	{3年生} ゼミで先行研究について発表、ミニ卒論を提出した(ゼミで課される短い論文) {4年生} 春学期 テーマ決定(途中、大きくテーマを変更したので、遅かった)、文献調査 夏休み中 フィールドワーク等に出かけた 秋学期 執筆開始、フィールドワークで得た資料の整理 12月 提出(12月14日付)	{3年生} 冬(11月ごろ) テーマ決定 {4年生} 春 資料収集 夏 資料分析及び執筆 秋 執筆 12月 提出(12月13日付)
Q4 卒業論文の書き方はどこで修得したか	ゼミでの指導教員からの指導及び、先輩の書いた卒業論文を見せていただいた。また、図書館や書店などで、論文作成の参考書を借りたり、購入した。図書館ガイダンスにも参加した。	指導教員から配られた書き方の基本に沿って	先輩の卒業論文 (論文執筆のための)参考書
Q5 卒業論文を書くうえで、困難に感じたこと	資料を読むと、意味の分からない単語や知らない単語が出てくるが、それらの単語がどのような意味なのかを調べ、理解することに時間がかかった。資料を読みながら、卒業論文を執筆するという同時進行は難しいので、まずは資料を読み、その内容を理解するようにした。 図を作成したが、本文中におけるレイアウトに苦労した。ひたすら、微調整を繰り返した。	フィールドワーク先で撮影禁止の場所があり、困った。また、撮影した写真もピンボケやきちんと写せていなかったりした。撮影の際は、事前に許可をとったり交渉してみること、カメラの使い方や撮り方は心得ておくトラブルを回避できるかもしれない。 書籍の初版が古いと、その後の改訂版で内容が変更されていたり(図版が収録されないなど)、本の入手自体も困難な場合がある。また外国語の文献はいくつかの邦訳がでていることもあり、注意が必要だと思った。	引用、参考の仕方に苦労した。内容の良し悪しはさることながら、卒業論文の大前提として、誤字脱字、指導教員からの指定が守られているかが重要になると思う。そこでミスをしてしまうと、卒論として不成立とみなされ、大きくマイナス評価に繋がってしまう恐れがある。その為、普段のレポートよりも一層の注意が必要になり、困難に感じられた。何度も読み返すこと、一度教員や友人に読んでもらおうとすることで、この問題に向き合った。
Q6 卒業論文に取り組みときのポイント	レポートとは全く異なり、すぐに書き上げることが出来ないため、地道にコツコツと執筆すること。また、結論や到達点を見据えたうえで、章立てを決めること。	構成(章立て)は重要。「なんとなく」では執筆は進まない。また、自分で書いた文章はあとで何度も読み返すこと。	あらかじめの準備、資料収集を怠らないこと、 具体的な計画をたてておくこと。
Q7 参考文献の入手経路	図書館(学習院女子大学・学習院大学・地元)のOPACのキーワード検索 女子大学図書館での取り寄せ	CiNii、国立国会図書館、大学の図書館、地元の図書館、美術館のライブラリーなどのOPACを利用した。ネットで検索して、図書館へ探しに行くことが多かった。	女子大学図書館で手に入らないものに関しては、レファレンスカウンターで取り寄せをお願いした。遠方にある資料のほとんどを取り寄せることができるので、自分で他の図書館へ出かけて入手することが少なかった。
Q8 Q7で回答された方法を用いることのメリット	女子大学図書館では、図書の取り寄せが出来るので、わざわざ他の図書館を訪ねて所蔵を探したり、借りに行く時間と労力を省ける。	ネットで探せるのは便利(ごく一般的なやり方だとと思う)。 美術館併設のライブラリーは一般の図書館にはない資料(特に展覧会カタログ)があり、役立つ。	自分では行けないような遠方の資料も集めることができる。その為、時間、入手に伴う金銭面にしても節約することができ、大変便利であった。また、資料のある他大学に対し、外部の人間でも借りることができるのかなどの問い合わせのサービスもしてくれるので、資料のある現場に行ったときの資料貸出しのやり取りもスムーズに行うことができた。
Q9 お薦めのデータベースやオンラインジャーナル	「CiNii Articles - 日本の論文をさがす」 無料で学協会刊行物、大学研究紀要などの雑誌記事が検索できる。また一部、本文の閲覧や引用情報も表示できる。	「国立国会図書館デジタル化資料」は、今では手に取れない貴重な資料を閲覧するのに便利。(一部は館内のみ公開のため、注意が必要。) 「美術館図書館横断検索」(http://alc.opac.jp/)は、美術や建築関連の文献を複数館で横断検索することができ、便利。	「CiNii Articles - 日本の論文をさがす」 日本中の論文を探ることができるので、先行研究を把握しやすい。 国立国会図書館は、雑誌、新聞などの幅広いマスメディアからの収集が可能。「リサーチナビ」という検索システムでは、何か調べ物をする際に、求めている情報に効率よくアクセスできるための手助けになるような情報、各種データベースを見つげることができる。資料収集しようとしても、どこから手をつけていいのかわからない人にとっては有効であると考えられる。
Q10 失敗(?)をふまえてのアドバイス	章立て(内容、流れ、結論等)をきちんと考えて決めること。 卒業論文のデータは、こまめにバックアップをとること。 一人で悩まずに指導教員や友人と話し、アイデアを頂いたり、適度な息抜きをすること。	テーマ設定時期、書き始めた時期が遅かったため、締め切り間際で提出した。(最終日の提出は絶対避けるべき。) だらだらと執筆を続けると思わぬ方向にいつてしまいか、進まないで、構成(章立て)をしっかりと考えて書くことが重要だと思う。	「いつまでに行おう」といった具体的な計画設定をもっと細かく立てておけば良かったと思う。当時、教職課程、学芸員課程を履修していたので、卒論に集中して時間をかけることが難しかった。実習中にやろうと思いついても、なかなか思うようには進められないのが現実である。早くから始めることに越したことはないが、何事もリハリをつけ、少しずつでも計画的に集中して行うことで、順調に作成して行けると思う。
Q11 図書館に期待すること	図書館が果たす役割は、学生が大学卒業後も生涯にわたって自ら学習し、課題を解決できるようにすることである。適切な情報を得るために各種ツールを使い、得られたデータや情報を分析・評価し、その成果を分かりやすく表現し、発信する能力を身に付けられるようにする。そのために図書館は、ラーニング・コミュニティ、図書館職員等によるレファレンスサービスや学習支援をしていく必要がある。	女子大学図書館の蔵書は豊富なので、文献調査の際にはとても役に立った。また、目白キャンパスにある学習院大学図書館との提携サービスは大変便利なので、大いに活用すべきである。また、レファレンスサービスもあり知られていないようなので、広く周知されるべきだと思う。	レファレンスカウンターの職員は親身な対応で、資料収集を助けてくれた。 図書館の果たす役割は、ただ利用者が求める資料を提供するのではなく、幅広く横断的な分野で資料を提供することにより、利用者の視野を広げること、多様なアプローチ方法を広く知らしめることだと考える。